

令和8年第1回定例会代表質問会議録（中島章二）

「旧郡部の振興について」

2026年3月5日(木)13:20~14:30

○8番（中島章二） [登壇]

通告に基づき市民クラブを代表して代表質問を行います。

次に旧郡部振興の取組について伺います。

人口減少や高齢化が市内でも特に著しく進む旧郡部において住民が安心して住み続けることができる地域をつくるため市長直属の旧郡部の振興に向けたプロジェクトチームがつくられています。どのような取組をしてきたのか、また次のフェーズをどのように考えているのか、伺います。

以上で壇上での質問を終え、答弁を聞いて質問席から再質問させていただきます。

○議長（三苫 誠） 市長。

○市長（棕野美智子） [登壇]

私からは8番議員の御質問のうち初めに旧郡部振興の取組についてお答えします。

現在、旧郡部における人口は平成17年の市町村合併当時の約6割となり、高齢化率は5割を超えている状況でございます。また、市長就任前、旧郡部を回った際に「声が届かない」「対応してもらえない」「忘れられているのではないか」といった不安を訴える多くの方々がおられました。こうしたことから私の選挙公約の一つでありました旧郡部の振興の取組を進めていくため令和6年4月に旧郡部の振興に向けたプロジェクトチームを設置いたしました。

このプロジェクトチームは、住民の皆様の届かない声をしっかりと聴、所管を超えて総合的に対応を考え、自分たちの課でできることは何かを前例や既存の体系にとらわれず柔軟な発想で実施していくための仕組みとして市役所内に設置したものでございます。プロジェクトチームのメンバーは、現在、チームリーダーに地域振興課長、サブリーダーに各振興局長の5名、それに福祉や観光、土木、農林業など旧郡部の振興に密接に関わる関係課長10名を加え計16名で構成しているところでございます。

議員御質問のプロジェクトチームのこれまでの取組でございますが、設置から現在に至るまで計12回のプロジェクトチーム会議を開催してまいりました。これまで振興局では地域からの様々な声の把握に努めており、それらについてプロジェクトチーム会議で共有し、関係課長は自分の課でできることは何かという観点から議論し地域課題の解決や振興策などについて検討を行ってまいりました。その検討に

において具体的な施策や方向性が決まった取組については旧郡部の振興支援事業をはじめとした旧郡部の振興に向けたプロジェクトチーム関連事業として令和7年度から当初予算への計上を行い、現在、地域課題の解決や振興策に向けた様々な取組を進めているところでございます。

次にプロジェクトチームの取組における次のフェーズの考え方についてでございます。

これまでは、どちらかといえば、主に地域からの困り事の声に対し、その解決策について議論を行いながら具体的な取組につなげてきたものでございますが、旧郡部それぞれの地域において特色のある農林業、自然を生かした様々な観光資源などが存在します。今後は、これまで取り組んでまいりました地域からの困り事への対応に加え、こうした農林業や観光分野などにおける効果的な振興策を提案し、地域の皆様と一緒に検討し、取り組んでまいりたいと考えております。これまでの困り事への対応を主とした取組から一歩進み、地域が持つ魅力や資源を積極的に生かした前向きな振興策の展開を目指したいと考えており、具体的な振興策につきましては令和8年度からのプロジェクトチームにおいて課題の抽出や取組内容等について検討を進めてまいりたいと考えております。

○議長（三苦 誠） 8番 中島議員。

○8番（中島章二） それでは、再質問に移らせていただきます。

それでは、旧郡部の振興について1つだけ質問させていただきます。

地域ごとに、困りとか将来に期待する考え方、旧郡部で元自治体ですのでそれぞれ考え方が異なっている点があるかと思っています。具体的にこのような課題をどのように発見し、そして支援策につなげていこうと考えているのか、具体的にお答えいただければと思います。

○議長（三苦 誠） 地域振興部長。

○地域振興部長（宮木哲也） 地域の困り事や課題につきましてはそれぞれの地域で異なることは十分に認識しておりましてそれぞれの地域が置かれている状況や地域住民の皆様が将来に期待する考え方は様々だというふうに思っております。

具体的な課題発見の手法といたしましては、まずは振興局が地域に最も身近な現場の中核として日頃から地域住民の皆様との対話を重ねながら地域課題を訴える声を拾い上げることが出発点だというふうに考えておりまして、そうした地域からの様々な声をプロジェクトチームの会議で共有して関係課長がそれぞれの専門的な視点からそれぞれの地域の実情に応じた効果的な支援策を検討してきたところでございます。

今後は困り事への対応に加えましてそれぞれの地域が持つ特色や資源を生かした

振興策について地域を一番理解している振興局と本町の関係課が縦割りの所管を超えて総合的に連携し地域住民の皆様と意見交換を重ねながら取り組んでいきたいというふうに考えております。

なお、プロジェクトチームの会議の進め方につきましては、チームメンバー全体の会議に加えまして、テーマを絞り、必要に応じて地域住民なども交えた実務的な作業部会による検討も進めるとともに国の交付金や県の補助金などの活用も視野に入れながら地域の魅力や資源を生かした効果的な振興策の検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（三苫 誠） 8番 中島議員。

○8番（中島章二） 旧郡部という一くくりに捉えられないということを私は常々思っているところでございます。そこそこで困りも違いますし、期待するものも変わってくるであろうと。市の対応として旧郡部という考えで言っていますが、旧市内でもセンター管内等周辺部においては非常に困りが出てきている部分もあるかと思っておりますので市の動きとしては周辺部を含めてその地域その地域の困りに対応できるような地域づくりを行っていただきたいと思っておりますし、困りだけに対応するものではないということを今日答弁いただきました。これから変えていく、発展させていくという方向性で地域振興を行っていただければと思いますのでよろしくお願い致します。